

アドバイザー派遣事業実施レポート

【研究団体名】 加茂中学校・溝口中学校合同研究会

【会 長】 勝本 秀人

【研修テーマ】 「全員が力を発揮し、高め合える授業を目指して」

【期日、会場】 第1回 平成30年 6月15日（金）伯耆町立溝口中学校にて

第2回 平成30年10月11日（木）米子市立加茂中学校にて

【アドバイザー】 中京大学 国際教養学部教授 杉江 修治 先生

【研修のまとめ】

第1回（溝口中学校会場）

事後研究会では、学習指導要領の改訂に向けての、根本的な授業スタイルの改善の必要性やポイントについてのお話をいただいた。杉江先生からは、全体公開の授業の流し方やスタイルについて、「まだまだ旧来のスタイルが残っている、課題や見通しの持たせ方の改善や生徒発表のさせ方の工夫が必要」という助言をいただいた。具体的には、「いかに生徒主体の授業の進め方をしていくか」「授業はシンプルな道筋で、生徒たち自身がいかに自分で主体的に動けるしかけを作るか」「発表は仲間に向けて自分たちのためにするものであり、先生に正誤をうかがう空気にはいけない」などの指導であった。これらやその他の助言をもとに、生徒が全員で高め合える授業作りを目指して、全職員で取り組んでいきたい。

第2回（加茂中学校会場）

「学習課題は適切であり、振り返りの時間が確保されていたか」、「生徒が学びの見通しをもち、学習に主体的に参加するしかけがあったか」、「ともに学び、ともに高め合う授業の工夫が見られたか」の3点を共通実践として、授業公開を行った。

指導助言としては、「主体的・対話的で深い学び」という観点から以下のような指導助言をいただいた。

- めあてが少しわかりにくいため、より生徒にわかりやすく示していく必要がある。
- グループ活動がただの意見の述べ合いで終わっているため、お互いを高め合い、クラスを高め合うという課題意識を持たせる必要がある。
- 生徒の深い学びを引き出せるようなしかけや工夫をし、生徒に高い期待を持たせる必要がある。

以上のように、すべての教科指導において大変参考となる示唆をいただいた。今後も本研究会で学んだことを生かし、日々の授業から実践を積み重ねていきたい。